



新たに誕生する、はくモンキーの
着ぐるみのデザイン
(提供:理工白門祭実行委員会)

はくモンキーに 会いにいきましょう！

着ぐるみが今秋に誕生
理工白門祭60周年記念
来場者の記憶に残るシンボルに

学生記者 荒田智海(文3) 則末耀斗(文3)



取材に答えてくれた理工白門祭実行委員会の近藤春那さん、平井航さん、岡沙織里さん（写真左から）＝後樂園キャンパスで

理工白門祭の公式マスコットキャラクター「はくモンキー」の着ぐるみが、2026年11月の理工白門祭で後樂園キャンパスに初めて登場する。開催60周年を記念して「より魅力的な学園祭へ、新しい伝統をつくりたい」と、理工白門祭実行委員会（委員長・渡辺成海さん＝3年）の広報部が着ぐるみ化プロジェクトを発案し、クラウドファンディングで制作費を募った。

「理工白門祭といえば、はくモンキー。来場者の記憶に残るシンボルとして、その姿がまず頭に浮かぶような親しまれる存在に育ってほしい」。そう願いながらプロジェクトを進める実行委員会広報部長の近藤春那さん（3年）と副部長の平井航さん（2年）、デザインを担当した実行委員会編集部副部長の岡沙織里さん（2年）の3人に話を聞いた。

2次元から3次元へ 「かわいらしさ」アップ

はくモンキーはこれまで、画像やイラストといった2次元の世界の存在だった。シンプルなデザインで、活動もSNSでの情報発信にほぼ限られていた。「着ぐるみ化、3次元化で、来場者が直接触れ合えるようになり、より身近な存在として、注目してもらいやすくなる」と、広報部長の近藤さんは期待する。「もともとかわいいのですが、さらにかわいくなりました。白衣が“押しポイント”です」と、理工系らしく眼鏡をかけて白衣を身につけたデザインを見て、ほほ笑んだ。

広報部副部長の平井さんも「理工系3学部は、学業面で

は少し堅いイメージがあるかもしれませんが、親しみやすい着ぐるみの存在によって、サークルなど学業以外のさまざまな活動にも学生たちが力を入れて頑張っているというアピールになればうれしい」と話す。

デザイン作成を担当した編集部副部長の岡さんは、「一番は顔にこだわりました。顔のパーツのバランスに気を配りながら、（2次元から）雰囲気を変えずに、かわいらしさを追加しました」と、キュートさが一層アップした出来栄に満足そう。理工らしさを演出する白衣の丈の長短と胸前のボタンの開閉状態、2種類の眼鏡、おなかの模様、足の形といった組み合わせにより、全部で16種類あったデザインから、編集部と広報部で精査して案を絞っていったという。

前例のない手探りの活動 クラウドファンディング

着ぐるみのデザインが固まったのが2026年3月。業者に制作費の見積もりを依頼し、目標額を95万円に設定したクラウドファンディングは4月6日にスタートした。SNSで広報活動を展開したほか、学内メールも活用して周知を図った。ただ、クラウドファンディングのページ作成も初めてで、すべては手探りの活動だった。スタート当初は反響が小さく危機感を覚えたが、5月15日に支援額105万円（支援者数93人）と目標額を上回り、終了した。

近藤さん、平井さんらは、クラウドファンディングを行っていることを継続的に情報発信することの重要性や、中大

との関係性を確認できないのに支援に応じてくれる人の存在を知ったという。近藤さんは「そうした方々の期待に報いることのできる理工白門祭としたい」と話している。

多摩キャンパスに出かけて、「チュー王子」「はくもっけん」とのコラボ動画を撮影したり、オープンキャンパスや新入生向けイベント、後樂園キャンパス近辺の地域イベントに参加したりと、今後、活躍の場も広がりそうだ。例年12月に発表される学園祭キャラクター総選挙にも参加する予定で、「はくモンキー」グッズを誕生させる計画もある。

はくモンキーに3次元の“命”を吹き込んだ岡さんは、「かわいいと、皆が言ってくれて、一緒に写真を撮りたくなる存在になってほしい」と笑顔を見せる。2026年も11月第1土曜・日曜に予定される理工白門祭。秋が待ち遠しい。



2025年の理工白門祭の様子
(写真提供：理工白門祭実行委員会)



2次元のときの旧はくモンキーのデザイン
(提供:理工白門祭実行委員会)

☆はくモンキー

3月21日生まれのサルの男の子。2014年頃に、理工白門祭実行委員会室のガラス戸のそばで、スヤスヤと眠っていたのを当時の委員長に保護された。存在は、理工白門祭のパンフレットに掲載された、この2014年の頃から確認されている。委員会室の場所が地下に変わり、ひなたぼっこができないため、今では校舎のテラスでよく見つかっている。

わりとやんちゃな性格で、しょっちゅう学部生にいたずらをしているが、院生には怖くてできないらしい。好きな食べ物はバナナ。常に持ち歩いているけれども、食べ過ぎてお金がなくなり、テラスでバナナを育てている。よりおいしいバナナを食べるため、品種改良の研究をしているそうだ。趣味はX(旧ツイッター)で、よく日常をつぶやいている。

着ぐるみは身長170センチ台で2.5～3等身という。

取材後記

秋は後樂園キャンパスに行く！ 着ぐるみ化への熱意、取材で体感

学生記者 則末 耀斗 (文3)

人間には同調バイアスと現状維持バイアスが備わっているということを最近知った。これらのバイアスが人間の行動を制限し、やる気に満ちた気持ちを頭の中に押しとどめて、楽な道に進ませようとするのだという。

はくモンキー着ぐるみ化プロジェクトを知ったとき、時間や費用の問題、周囲の協力など、越えなければならない数多くの壁があることを思った。そうした困難を乗り越えさせた熱意とはいったい何だったのだろう。それを確かめるべく、私は取材で「着ぐるみ化の背景として、理工白門祭がより良い思い出の場になってほしいと思うようになったのは、なぜですか」と尋ねた。

それに対して、理工白門祭実行委員会の広報部副部長、平井航さん(2年)は、「高校生のときに訪れた理工白門祭は、ずっと心に残るような思い出にならなかったんです。はくモンキーがいることで、ずっと来場者の記憶に残り続けるような、長い思い出になってほしい」と、高校時代の経験をもと

に理由を教えてくれた。そう語った顔は笑みに満ち、とても生き生きとしていた。

その表情を見て、「(冒頭の) バイアスを乗り越えさせた熱意の正体はこれだ!」と、平井さんのモチベーションの源を感じ取れた気がして、うれしくなった。それと同時に、温泉のガラス扉を開けたときのように、私自身が着ぐるみ化プロジェクトの源泉にただよう熱気にのまれ、胸が熱くなった。

私の通う多摩キャンパスの白門祭は4日間の開催だが、理工白門祭は2日間だ。所属するサークルの活動もあるし、多摩から後樂園キャンパスは気軽に出かけるには少し離れている。これまでは1時間をかけて後樂園に向かう気持ちにならなかったが、今年の秋は違う。平井さんをはじめ、実行委員会の皆さんの熱い思いの結晶である、着ぐるみのはくモンキーを見にいくつもりだ。取材を通して彼らの思いを知り、「多摩の白門祭でいいじゃん」とささやいてくる現状維持バイアスを吹き飛ばすだけの熱意が私の心に生まれたからだ。

取材後記

“押しポイント” は白衣 人気者になる姿が目に見えよう…

学生記者 荒田 智海 (文3)

中央大学のマスコットキャラクターといえば「チュー王子」、それから白門祭公式キャラクターの「はくもっけん」。キャンパスを象徴するアイコン的存在であるが、「はくモンキー」にも似たような愛らしさがある。デザインを担当した理工白門祭実行委員会編集部の岡沙織里さん(2年)は「顔のパーツのバランスを意識しました」と話した。2次元だったのはくモンキーの雰囲気を残しつつ、可愛らしさを追加したそう。さらに、「理工らしさ」を出してほしいという実行委内のリクエストも踏まえ、眼鏡をかけさせて3次元のデザインが出来上がった。

はくモンキーの「ここを見てほしい」というポイントについて、実行委広報部の近藤春那さん(3年)に尋ねると、「やっぱり白衣が一番の“押しポイント”。理工系なので」と、ほほ笑みながら教えてくれた。後樂園キャンパスで実験や課題に追われる日々で、白衣を着る機会も多いそうで、理工の学生にとって愛着を感じるデザインになると理解した。

はくモンキーのデザインは、眼鏡の形や白衣の長さ、ボタンの開け閉めなど計16パターンの案の中から実行委で選定した。とにかく可愛らしさが強調されている。取材の際、検討の中で挙がったいくつかの案を見せてもらったが、ぱっと見では違いがわからなかった。それだけ細部のデザインにこ

だわったということだろう。近藤さんは16案を検討する過程をまるで「間違い探しのような感覚」と振り返った。実際に、着ぐるみのはくモンキーに遭遇したときは、引き込まれるような顔のいとおさに負けることなく、全体のデザインにまで目を向けたい。

高校生のとき、理工白門祭に足を運んだ広報部の平井航さん(2年)は、2日間のお祭りの“非日常感”を楽しんだという。着ぐるみ化されたはくモンキーが訪れた人を歓迎し、お祭りはたとえ2日間でも、楽しさや思い出が来場者の心に長く残ってほしい。平井さんをはじめ実行委のメンバーのそんな願いが、着ぐるみ化プロジェクトには込められている。理工白門祭以外にも、新歓イベントや後樂園キャンパス周辺の地域の行事への参加も検討されているそうだ。

語尾に「うっきー」と付けて言葉を発するのも、はくモンキーの特徴のひとつだ。

「お披露目の日が待ちきれないうっきー。みんなと会って、一緒に理工白門祭を盛り上げたいうっきー!」

実行委の3人の話を聞いているうちに、実行委メンバーや、クラウドファンディングで支援してくれた人、学内外のさまざまな人の期待を背負い、理工白門祭で大勢の人との出会いを心待ちにする、はくモンキーの姿が頭に浮かんできた。



日本選手権予選で全体1位だった小室歩久斗選手(手前)(写真提供:「中大スポーツ」新聞部)



(写真提供:「中大スポーツ」新聞部)

陸上日本選手権 男子100メートルで 5位入賞

急成長、一気に短距離界期待の星に

陸上競技部短距離ブロック 小室歩久斗選手(法2)



男子100メートル予選で力走する小室歩久斗選手(右)=2026年6月12日、パロマ瑞穂スタジアム(写真提供:共同通信社)



日本選手権準決勝の小室歩久斗選手(中央)(写真提供:「中大スポーツ」新聞部)

陸上競技部短距離ブロックの小室^{ふくと}歩久斗選手(法2)が、2026年6月の日本選手権男子100メートルで決勝に進出した。準決勝で左太ももを痛め、決勝は万全の状態ではなかったが、5位に入賞した。前日の予選では全体1位となる10秒07の自己ベスト、学生歴代十傑に名を連ねる好タイムを記録し、一気に短距離界で期待を集める存在となった。急成長を遂げている理由や今後の抱負などを小室選手に尋ねた。

100メートル決勝 負けの悔しさ「次につなげる」

男子100メートル決勝は7レーンからのスタート。左脚のハムストリングス(太もも裏)に違和感が残り、症状をこれ以上悪化させないようにと気を配りながらのレースだった。隣のレーンの選手が前に出たのが視界に入ったとき、悔しさが募った。「脚を痛めさえないければ、優勝できたかもしれない」。そんな思いが胸に去来した。

決勝前日の予選は全体1位で通過し、「今回は絶対に勝ち切れる」と自信を深めた。予選から準決勝へと進む過程で

は、身体の充実を感じていた。絶好調のゾーンに入っていたといい。ところが、準決勝で加速した際にアクシデントが襲った。それでも準決勝は全体2位。自信があったからこそ、「どうしてこのタイミングで…」と悔やんだ。

太ももの肉離れとわかったが、決勝前にハリ治療などを施しても、百パーセントの状態で最高の舞台に臨むことはできなかった。欠場という選択肢もあったが、日本一を決める決勝の舞台を経験することも大切だと考えて出場した。そして、この日の記憶を胸に刻み、「この負けを絶対に次につなげる」と意を強くした。練習などでつらいとき、決勝のレースを思いだして心を奮い立たせているという。

走りの秘密は骨盤の上下動 「まねできない独特の動き」

昨シーズンまで10秒31だった自己ベストを今季は一気に伸ばした。5月5日の東海スプリントでは10秒08をマークして大幅に記録を縮め、「ここまで伸びるのか」と自身でも驚いた。日本選手権の予選でさらに100分の1秒、更新した。

下半身に比べ、たくましさが十分でなかった上半身のウェイトトレーニングに、大学1年の冬に力を入れた。肩回りや後背筋、^{でんぶ}臀部に近い腰の筋肉などを強化すると、身体全体のバランスが良くなり、結果につながったという。もちろん、

競技人生の出発点

「小学4年の徒競走で最下位」
「負けるのは嫌」と陸上クラブへ

◆ Profile 小室歩久斗選手

こむろ・ふくと。茨城県出身、茨城・つくば秀英高卒、法学部2年。168センチ、64キロ。100メートルの自己ベストは10秒07（2026年日本選手権予選）。中学3年で全国中学校体育大会（全中）男子100メートル4位入賞、高校2年のインターハイ男子100メートルで6位入賞。2024年U20世界選手権の男子100メートル、4×100メートルリレーの日本代表に選出された。

小学4年の運動会の徒競走で6人中最下位となったことに悔しさを覚え、負けず嫌いの性格から、5年生になって地元・茨城の陸上クラブに入り、短距離に取り組み始めた。走るのは好きだったものの、きつい練習は苦手で、中学では好きな美術部か吹奏楽部に入ろうと考えていた。しかし、足が速いことを知っていた知人が「もったいないから」と勧めたため、考え直して陸上部に入部したという。

レースでは高校時代からサングラスを着用する。紫外線予防や、視界が遮られることで走りに一層集中できるからという。カラオケが好きで、シンガーソングライターの清水翔太さんの楽曲をよく歌うそうだ。

下半身のスクワットトレーニングも忘れていない。

そして、小室選手の走りの特徴づけているのが、腰を支える骨盤の上下動だ。骨盤の動きが足に伝わり、より加速を増すことにつながる。足だけを上下させるという意識だと力みが生じるため、普段の練習から骨盤の上下動を意識しているという。骨盤の動きは、前傾姿勢のときや後ろから見たときにわかりやすく、高校時代のコーチや中大の先輩、同期からも「まねできない独特の動き」と評価されている。

100メートルの魅力は「それまでの努力をわずか10秒の間に見せるところ」と話し、「1000分の1秒を争う競技で、日々の練習やその日の体調が結果に凝縮される」と続けた。集中力が不可欠で、レースへの不安も記録の伸びを妨げる。一瞬のミス、少しのミスが記録につながってしまう怖さも感じているという。

アジア大会の日本代表に内定

「ロス五輪100メートルで決勝進出を」

目標としている存在は、中大の先輩である飯塚翔太選手（ミズノ）だ。五輪や世界陸上の200メートルやリレーに出場し、長く一線で活躍している飯塚選手を尊敬している。年に数回、多摩キャンパスの陸上トラックで言葉を交わす機会があり、人柄にも惹かれているという。6月の日本選手権でサブトラックで会った際は、全体1位だった予選について「よかった」と声をかけられた。

外国の選手では、米国歴代4位の9秒76の記録を持つトレイボン・プロメル選手があこがれの存在。スタートの反応が速く、小柄ながらも走るフォームの美しさに惹かれるという。

ライバルを尋ねると、陸上競技部の同期で同じ短距離が専門の山崎天心選手（法2）の名前を挙げた。刺激し合いながら切磋琢磨する関係で、普段から仲が良いという。同期や先



日本選手権で履いたシューズを手にする小室歩久斗選手＝多摩キャンパスで

☆第110回日本陸上競技選手権大会
男子100メートル決勝

（2026年6月13日、名古屋市・パロマ瑞穂スタジアム）

順位	名前	所属	記録
①	多田 修平	（住友電工）	10秒17
②	西岡 尚輝	（筑波大）	10秒20
③	桐生 祥秀	（日本生命）	10秒24
④	山本 匠真	（広島大）	10秒25
⑤	小室歩久斗	（中央大）	10秒26
⑥	水野琉之介	（早稲田大）	10秒26
⑦	木梨 嘉紀	（エターナルホスピタリティG）	10秒32
⑧	三輪 颯太	（小泉）	10秒35

（注）記録は日本陸上競技連盟サイトより抜粋

輩とともに明るく前向きに練習に取り組んでいる。

今秋の名古屋アジア大会の4×100メートルリレー、混合4×100メートルリレーの日本代表にすでに内定した。「大学2年でここまで成長できた。4年生で迎える（2028年の）ロス五輪では、出場するだけでなく、100メートル決勝に進める選手になりたい」と力強く話している。



関東インカレ
男子3000メートル障害3位、
日本選手権に出場

「日本一速い主務」

陸上競技部長距離ブロック 山崎草太主務(文4)

関東インカレで3位に入賞し、
笑顔を見せる山崎草太選手
=2026年5月24日、カンセキ
スタジアムとちぎ(写真提供:
陸上競技部)



日本選手権男子3000メートル障害に出場した山崎草太選手(左)＝2026年6月12日、パロマ瑞穂スタジアム(写真提供:「中大スポーツ」新聞部)



日本選手権で水濠を飛越する山崎草太選手(手前)
(写真提供:「中大スポーツ」新聞部)

☆^{きだい}黄台のCのユニフォーム

伝統の「C」の赤文字に、黄色い縁取りが施された特別なユニフォーム。日本選手権と日本インカレ、関東インカレの入賞者、中大記録の樹立者、三大駅伝区間賞または中大記録の樹立者、三大駅伝優勝者が着用できる。

◆ Profile

山崎草太主務

やまさき・そうた。山口県立西京高卒、文学部4年。170センチ、54キロ。1年次に箱根駅伝5区を走り、区間14位(1時間13分23秒)。自己ベストは3000メートル8分13秒17、5000メートル14分01秒54、1万メートル29分46秒48。3000メートル障害の自己ベストは2026年日本選手権決勝の8分41秒97。

陸上競技部長距離ブロック(駅伝)の山崎草太主務(文4)が注目を集めている。部活動の主務の仕事に打ち込む一方で、選手として出場した5月の関東学生対校選手権(関東インカレ)の男子3000メートル障害で3位に入り、表彰台に立ったからだ。メディアの報道では「日本一速い主務」という見出しが躍った。山崎主務は「一番は主務の仕事にしっかりと取り組み、チームに貢献すること」と自身の役割を位置づけ、「走りを評価してもらえるのはうれしい。集団を引っ張るなど練習の良いアシスト役も務め、個人としては5000メートルを13分台で走りたい」と、最終学年の抱負を話している。

就活の面接終えて 関東インカレ会場へ

関東インカレの男子3000メートル障害決勝。400メートルトラックを7周半するうち、ラスト1週の地点で8位前後、ここから前を次々に抜いて3位でフィニッシュした。中大伝統の^{きだい}黄台の「C」のユニフォームを着る資格を得たいと、目標に定めた入賞(8位以内)を優に上回る好成績を残した。

中間走の練習が十分ではなく、レース中に心拍は高まったが、足取りは軽かった。「8位狙いで無理をして上位を狙わなかったのが良かった」と振り返る。「誰もが立てる舞台ではない。楽しんで走ってきてほしい」と送り出した藤原正和・駅伝監督



日本選手権で力走する山崎草太選手(写真提供:「中大スポーツ」新聞部)

も、3位の結果に驚き、称えてくれたという。

予選が行われた決勝前日は、就職活動で東京都内での面接を済ませた後、競技開始の約4時間前に宇都宮市の会場に到着した。走る準備が十分だったとはいえないながらも、体調管理や事前の調整に工夫を凝らしたという。

山崎主務は1年のときの箱根駅伝で山上りの5区を走った。ただ、2年では、ひざの故障や、結果が出ないプレッシャーに苦しんだ。3年以降はチームを支える立場で仲間に貢献すると重い決断を下したが、「けがさえなければ、もっと楽しく走れるんだろうな」とも感じていた。「走るために中大に進学したから、悔しさはあった」と振り返っている。

よみがえった「走る楽しさ」 日本選手権で自己ベスト

今回の出場へとつながるきっかけは2025年11月に訪れた。3000メートル障害の学生歴代3位の記録(8分24秒68)を持つ同学年の柴田大地選手(文4)のパートナーとして、上りの練習に付き添うようになった。柴田選手は翌2026年箱根駅伝で5区を任されることになる。選手として背負うものが軽くなった山崎主務は、身体も心も軽やかに感じるようになり、高校時代のような、走る楽しさがよみがえってきた。

今春以降は週1〜2回、チームのポイント練習にも加わった。



関東インカレで水濠を越える山崎草太選手(中央)(写真提供:陸上競技部)

「思い出づくりのつもり」で、4月の平成国際大記録会で3000メートル障害に出場すると、関東インカレの参加標準記録を突破し、一緒に出場した柴田選手にも先着した。この種目への出場はこのときが初めてだった。せっかくだからと、水濠や飛越の練習を中大のグラウンドで何度か行って関東インカレに挑み、今回の好成績へと結びつく。勢いを駆って挑んだ6月の日本選手権は12位だったものの、関東インカレを上回る自己ベストを記録した。

秋の国民スポーツ大会出場も視野

もともと高校時代からひざを故障しがちで、高校2年のときは出場を予定していた3000メートル障害の飛越練習で転倒した経験もあり、平地よりリスクの高いこの種目への挑戦は控えてきた。しかし、今はひざの痛みもなく、「練習すればもう少しタイムは上がる。もっと走れるという感覚はあります」と力を込める。

今秋には青森県で10月に開催される国民スポーツ大会の3000メートル障害に出場するつもりだ。大学の駅伝シーズンと重なる時期ではあるが、出場が十分に可能な日程になっているという。

「日本一速い主務」として注目されている心境を尋ねると、「その名に恥じないような走りを見せないといけない。前向きな方向に力を持っていく、今は良い意味のプレッシャーを感じています」と笑顔をのぞかせた。

☆第105回関東学生陸上競技対校選手権大会 (関東インカレ)

男子3000メートル障害決勝

(2026年5月24日、宇都宮市・カンセキスタジアムとちぎ)

順位	選手名	所属	記録
①	佐々木 哲	(早大2年)	8分24秒96
②	小野 真忠	(東海大3年)	8分31秒41
③	山崎 草太	(中大4年)	8分43秒62
④	安田 陸人	(慶大4年)	8分45秒28
⑤	湯田陽平兵	(法大4年)	8分46秒55
⑫	徳山 博貴	(中大1年)	8分54秒15
⑭	末田唯久海	(中大1年)	8分56秒37

(注) 記録は関東学生陸上競技連盟サイトより抜粋

☆第110回日本陸上競技選手権大会 男子3000メートル障害決勝

(2026年6月12日、名古屋市・パロマ瑞穂スタジアム)

順位	選手名	所属	記録
①	青木 涼真	(Honda)	8分18秒63
②	小原 響	(GMOインターネットグループ)	8分18秒66
③	小野 真忠	(東海大)	8分21秒87
⑧	柴田 大地	(中央大)	8分32秒98
⑫	山崎 草太	(中央大)	8分41秒97

(注) 記録は日本陸上競技連盟サイトより抜粋